

バンコマイシン点滴静注用 0.5g 「トーフ」

【この薬は？】

販売名	バンコマイシン点滴静注用 0.5g 「トーフ」 VANCOMYCIN FOR INTRAVENOUS INFUSION 0.5g “TOWA”
一般名	バンコマイシン塩酸塩 Vancomycin Hydrochloride
含有量 (1 バイアル中)	0.5g (力価)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、グリコペプチド系抗生物質製剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、細菌の細胞壁の合成を阻害することにより、殺菌的な抗菌作用を示します。
- ・次の病気と診断された人に、医療機関で使用されます。

1. ＜適応症＞

敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、骨髄炎、関節炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、腹膜炎、化膿性髄膜炎

＜適応菌種＞

バンコマイシンに感性的メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）

2. ＜適応症＞

敗血症、感染性心内膜炎、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、骨髄炎、関節炎、腹膜炎、化膿性髄膜炎

＜適応菌種＞

バンコマイシンに感性のメチシリン耐性コアグラウゼ陰性ブドウ球菌（MRCNS）

3. ＜適応症＞

敗血症、肺炎、化膿性髄膜炎

＜適応菌種＞

バンコマイシンに感性のペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）

4. MRSA 又は MRCNS 感染が疑われる発熱性好中球減少症

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にバンコマイシン点滴静注用に含まれる成分で過敏症のあった人

○次の人は、原則として、この薬を使用することはできません。

- ・過去にテイコプラニン、ペプチド系抗生物質、アミノグリコシド系抗生物質で過敏症のあった人
- ・難聴の人

○次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

- ・腎臓に障害のある人
- ・肝臓に障害のある人
- ・高齢の人
- ・低出生体重児、新生児

○過去に抗生物質などでアレルギーを起こしたことがある人は、必ず医師または薬剤師に伝えてください。

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

使用量、使用回数などは、あなたの年齢、体重、症状などにあわせて医師が決めます。

通常、使用量および回数などは次のとおりです。

いずれの場合も、60 分以上かけて点滴で静脈内に注射します。

〔成人〕

1 回量 (バンコマイシン塩酸塩として)	使用間隔
0.5g	6 時間ごと
1 g	12 時間ごと

[高齢の人]

1 回量 (バンコマイシン塩酸塩として)	使用間隔
0.5g	12 時間ごと
1 g	24 時間ごと

[小児、乳児]

1 日量 (バンコマイシン塩酸塩として)	使用回数
体重 1 kg あたり 40mg	1 日 2 ～ 4 回に分けます。

[新生児]

1 回量 (バンコマイシン塩酸塩として)	使用間隔
体重 1 kg あたり 10～15mg	生後 1 週までは 12 時間ごと
	生後 1 ヶ月までは 8 時間ごと

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬でショック（冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失）、アナフィラキシー（全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しい）があらわれることがあるので、点滴開始から終了後まで、安静にしてください。異常を感じたら、医師または薬剤師に連絡してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳を中止してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。
- ・この薬の効果の確認と副作用の予防のため、血液中の薬の濃度が測定され使用量や使用間隔が調整されます。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸、息苦しい
急性腎不全 きゅうせいじんふぜん	尿量が減る、むくみ、体がだるい

重大な副作用	主な自覚症状
間質性腎炎 かんしつせいじんえん	発熱、発疹、関節の痛み、吐き気、嘔吐（おうと）、下痢、腹痛、むくみ、尿量が減る
汎血球減少 はんけつきゅうげんしょう	めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきの出血、息切れ、動悸、あおあざができる、出血しやすい、発熱、寒気、喉の痛み
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
中毒性表皮壊死融解症（TEN） ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう（テン）	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群（ステイブンス-ジョンソン症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん（ステイブンス-ジョンソンしょうこうぐん）	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
剥脱性皮膚炎 はくだつせいひふえん	ほぼ全身の皮膚が発赤する、フケやかさぶたのようなものを付着し、それがはがれ落ちる、発熱をしばしば伴う
薬剤性過敏症症候群 やくざいせいかびんしょうしょうこうぐん	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ
第8脳神経障害 だいはちのうしんけいしょうがい	ふらつき、めまい、耳が聞こえにくい、耳鳴り、難聴
偽膜性大腸炎 ぎまくせいだいちょうえん	腹痛、血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る、発熱、頭痛、吐き気、冷汗が出る、顔面蒼白、手足が冷たくなる
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、ふらつき、むくみ、体がだるい、発熱、出血しやすい、寒気、突然の高熱、出血が止まりにくい、発熱をしばしば伴う、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ、疲れやすい、力が入らない、体がかゆくなる
頭部	めまい、意識の消失、頭痛
顔面	顔面蒼白、鼻血
眼	目の充血やただれ、白目が黄色くなる
耳	耳鳴り、耳が聞こえにくい、難聴

部位	自覚症状
口や喉	喉のかゆみ、吐き気、嘔吐、歯ぐきの出血、喉の痛み、唇や口内のただれ
胸部	動悸、息苦しい、息切れ
腹部	腹痛、食欲不振
手・足	手足が冷たくなる、関節の痛み
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、発疹、あおあざができる、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、ほぼ全身の皮膚が発赤する、フケやかさぶたのようなものを付着し、それがはがれ落ちる、皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、皮膚が黄色くなる
便	下痢、血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る
尿	尿量が減る、尿の色が濃くなる

【この薬の形は？】

容器の形状	バイアル（ガラス瓶） 
性状	白色の塊又は粉末

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	バンコマイシン塩酸塩
添加物	マクロゴール 400、D-マンニトール

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。
製造販売会社：東和薬品株式会社（<https://www.towayakuhin.co.jp/>）
くすり相談
電話番号：0120-757-108
受付時間：9時～17時30分
（土、日、祝日、その他弊社の休業日を除く）